

「三栄です」は「いつもお世話になっております」

三栄です

これからの集団資源回収のあり方を考える



いい経験をさせて頂きました

去る六月二十九日、我々の業界団体である日本再生資源事業協同組合連合会の全国大会が札幌で開催されました。第三部では、人口減少社会における集団資源回収をテーマにしたパネルディスカッションが開催され、不肖紺野がコーディネーター役を仰せつかりました。全国各地からいらした五名のパネラーの皆様から各地域の集団資源回収の事情をお伺いしながら、

今後のあり方について討論させて頂きました。時間があまりありませんでしたので、突っ込んだ議論はなかなかできませんでしたが、各地の特色のある取り組み、先進的な取り組みについてお聞きしたり、今後の展望を聞き出せたりして、有意義な会となりました。

今後集団資源回収を取り巻く課題としては、団体の構成員数もさることながら、その中で役員の担い手が減っていること、また、役員さんの負担が大きくなっていること、高齢化に伴い、集積所や拠点まで資源を出すことが出来ない世帯も増えていること、そしてさらには資源物の発生がだんだん減っており、団体に入る助成金も年々減少していることなど様々なです。

一方で、一般的に行政回収よりもコストが安く、地域コミュニティの活性化の一助にもつながる集団資源回収は、今後ますますその重要性が増してくると考えられます。集団資源回収がしっかりと地域に根差した資源循環システムとして機能していくためには、市民（団体の皆様）、自治体と我々業者がしっかりと連携してサービスの向上に努めるとともに、それに見合った回収コストの確保をしていかななくてはならないと感じました。

皆様の身近にある回収業者を目指して弊社も取り組んでまいりますので、集団資源回収の団体の皆様への出張説明会、弊社方法のご相談など、お気軽にご連絡下さい。

第34号

発行元

株式会社
三栄サービス

東村山市
久米川町
1-16-5



IPSuS 0002394

小物雑貨類・家具のリユースを推進しています！

先日、各市のイベントで回収を行った小物雑貨類や、リユース可能な家具類の輸出パンニングの立ち合いに行ってきました。皆様のお家の中に、ごみにせず、まだまだリユースできる資源が眠っていることは以前お知らせさせて頂きました。日本の中古品は、ものが多いので、国内のリサイクルショップは元より、東南アジアの各国で需要があり、大変喜ばれております。リユース可能なものは、大きな傷や汚れ、



東所沢のヤードをお借りして保管と積み込みを行っています。

破損がなく、まだまだ使えることが条件になります。食器棚やタンスといった家具類、食器類（枚数がそろってなくてもOKです）、育児用品、おもちゃ、ぬいぐるみ、かばん（キャスター付きのものやキャディーバッグ、ランドセル、エコバッグはNG）、靴（左右揃っていること）、傘、未使用の贈答品のタオル、ハンカチ等です。リユース出来ないものはごみとなり回収することが出来ませんので、対面回収が基本となりますが、集団資源回収の団体様のイベント等で実施することは可能です。戸別に何う場合は、運び出しと運搬に若干費用が掛かる場合がありますのでご相談下さい。

